

リレーセンターみなみの活用について

分散化に貢献する施設

リレーセンターみなみは「分散化に貢献する現有施設」と位置づけ、資源ごみ処理施設の設置に必要な候補地（2箇所）の他に、活用していく。

ごみ中継基地（100トン/日）として、1985年に稼動を開始した「リレーセンターみなみ」（町田市鶴間）については、ごみの減量施策の効果により、搬入する可燃ごみが減少し、施設機能に余裕がある状況となっている。

そのため、既存施設の有効利用を図り、収集運搬効率の観点及び可燃ごみの中継基地に加え、「分散化に貢献する現有施設」と位置づけ、資源ごみ処理施設（容器包装プラスチックの圧縮梱包施設）の設置に必要な候補地の他にこれを活用していくものとする。

○ 既存施設の経緯

リレーセンターみなみは、ごみ中継基地構想の一環として人口増の地域であり、焼却施設より遠距離にある南地区のごみ収集運搬の能率化を計るべく建設されました。ごみ積替業務の効率化、省力化、安全性はもちろんのこと、特に公害防止に最新の注意を払うことにより往来例を見ないマンションに併設ということを可能にした施設です。

○ リレーセンターみなみは、施設の分散化に貢献する既存施設として位置づけ、『プラスチック圧縮梱包施設』として活用する（提案）

理由

① 必要面積の確保

ごみの有料化による減量や紙ごみの再資源化の協力により、南地区の可燃ごみの収集量は約50%に減少しています。施設フロアの約半分のスペースを利用することが可能です。

② 施設整備費用の削減

可燃ごみの中間処理施設のため、機械本体以外の電気設備や脱臭設備、建屋、収集運搬などのインフラ面がすでに整備されており、工事費用の削減が期待できます。

※ プラスチック処理量5t/日 規模の施設（約1億円、メーカー参考見積り）

③ 施設の分散化に貢献

検討では、面積条件以外の総合評価が高く、分散化の貢献度は非常に高い